

2010 年度大学教育研究重点配分経費研究成果報告書

テーマ	梶井基次郎「檸檬」の諸相	要求額 (C)	300 千円
		公募分野	3
テーマの概要	<p>① 概要</p> <p>高校国語教材でもあり、2008 年 10 月に亡くなった本学学生倉地亜由美さんの卒論対象作品でもある梶井基次郎「檸檬」を、同時代文学思潮・国語教育・映画論・批評理論の観点から読み替えてテキスト解釈の新たな段階を提示した論文集『梶井基次郎「檸檬」の諸相 倉地亜由美追悼論集』を出版するための共同研究を行う。</p> <p>② 本書出版の意義</p> <p>「檸檬」は名作であり、愛読者も多く、鈴木貞美編『梶井基次郎「檸檬」作品論集』（クレス出版 2002）のような論集もある。また、ここ二十年ほどの日本近代文学研究の物語分析から文化研究への転換において、モダニズムとその基盤を問題として再検討を行う中に「檸檬」をその言及対象とする仕事も、村田裕和・今泉康弘・日比嘉高・飯田祐子各氏らが行っている。日本近代文学研究の側から言えば、こうした研究の進展が注目される「檸檬」を再考する意味は大きい。</p> <p>また、梶井作品の高校教科書採用は「檸檬」に限らず「闇の絵巻」「城のある町にて」等もされているように、高校国語教育においても梶井作品が教材化されて久しい。したがって、「檸檬」を分析することは、国語教育の面からも高い意義を持つ。</p> <p>さらに、梶井研究の第一人者といえは鈴木貞美氏であるが、鈴木氏の単著には従前の仕事の集大成であり、各氏の論を集めた編著も約八年が経過している。価格的にも鈴木著・鈴木編著は高く大部であり、容易に学部生が手に取ることができない。そうした点で、映画・言説状況・共同体・教育実践という視角を絞ってコンパクトかつ安価に「檸檬」像を提示する著作は存在しない。本書が四人の論者による分析によって構成されていることはそれぞれの立場の違いを超えて「檸檬」解釈あるいは同時代文化に対する新たなイメージの提出に寄与することができ、かつまた「檸檬」分析は一定の読者層を見込むことができる。本書の狙う位置が、現在の出版状況の中で欠落しているということは、本書の必要性を示すものである。</p> <p>国語教育現場・文学研究者が関心を寄せている「檸檬」を選びすぐられた複数の視点から分析・検討することで研究の新展開を提示する。ここに本書の独自性がある。</p> <p>③ 目次</p> <p>はじめに 西田谷 洋</p> <p>習作というバージョン —— 梶井基次郎「[瀬山の話]」論 五嶋 千夏</p> <p>「檸檬」における「二重寫し」の位相 森川 雄介</p> <p>エコロジカルな反逆と魂 —— 梶井基次郎「檸檬」のコンストラクション</p> <p>西田谷 洋</p> <p>えたいの知れない不吉な〈教材〉 —— 「檸檬」教材論のために —— 丹</p>		

	藤 博文 おわりに 西田谷 洋 [参考資料] 梶井基次郎「檸檬」(初出版・全文) ④ 判型等 判型四六判 横書 29 字×26 行 頁数約 80 頁 表紙二色刷、本文白黒 部数 500 部 価格約 900 円 ISBN を付ける ⑤ サブタイトル 本書は、故倉地亜由美さんが卒業論文の対象としていた「檸檬」を取り上げ、故人と何らかの接点をもった者が執筆者である点で、彼女の追悼論集でもあるため、書名サブタイトル「倉地亜由美追悼論集」と明記した。		
プロジェクトの実 施計画	春 執筆者各自がそれぞれの立場から「檸檬」を分析する。 6 月 12 日 森川雄介「檸檬とモンタージュ」(日本近代文学会東海支部 例会口頭発表) 6 月 26 日 西田谷洋「梶井基次郎「檸檬」再考」(日本社会文学会東海 ブロック例会口頭発表) 9 月 9 日 森川・五嶋論文検討会(愛知教育大学西田谷研究室) 9 月 28 日 入稿 10 月 30 日 刊行		
代表者及び共同研 究者名 (代表者に○印)	氏 名	所属部局講座等	役割分担
	○西田谷 洋 丹藤 博文 森川 雄介 五嶋 千夏	国語教育講座 国語教育講座 愛知教育大学院生 名古屋大学院生	代表者・個人研究費負担者 共同研究者 共同研究者 共同研究者
中期目標・中期計 画・年度計画との関 連	愛知教育大学の教員・院生・OB による高校国語教材「檸檬」の共同研究は、中期目標「2 研究に関する目標(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標」、及び中期計画「2 研究に関する目標を達成するための措置(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置」①②にもあるように、文学研究の最新の成果を提示すると共に、高校現場での教材研究にも寄与するものである。愛知教育大学出版会から研究成果を公刊することは、中期目標 2 (1) でいう社会への還元、中期計画 2 (1) ③で示される社会への公表・提言・助言であると考え。		
大学教育・教員養成 開発センターとの 関連	本テーマは、大学教育・教員養成開発センターとの関係はないが、梶井基次郎「檸檬」に対する学内外の研究者との共同研究によってテキスト分析の問題を考察し、その成果である論文集を愛知教育大学出版会から出版するものであり、出版費用の助成を申請するものである。		
科学研究費補助金 との関係	本テーマは、科学研究費補助金との関係はない。 なお、研究代表者は 2005～2010 年度科学研究費補助金への応募は無いが、他大学教員との間で共同研究として 2011 年度に別テーマで応募する予定である。		

期待できる成果と成果の客観評価の方法	共同研究『梶井基次郎「檸檬」の諸相 倉地亜由美追悼論集』を刊行することで、梶井研究史・国語教育史に寄与できる。 また、国文学系学会誌・啓蒙誌、文学研究者等に寄贈し新刊紹介・書評の対象となるようにする。					
成果及び結果の大学及び地域社会への還元並びに成果の活用方法	大学の演習・講義や公開講座などでの教科書・参考書として利用することで、学生や地域社会に還元する。また図書館や研究者に寄贈することで研究史の中に組み込まれるようにする。 なお、一般読者が入手しやすいように、他大学出版会の刊行物と同様に、愛知教育大学出版会の図書が一般書店（せめて amazon）で入手できるようにしていただきたい。					
テーマに関するこれまでの業績	西田谷洋 単著『語り寓意イデオロギー』（翰林書房 2000.3）、単著『認知物語論とは何か？』（ひつじ書房 2006.7）、共著『認知物語論キーワード』（和泉書院 2010.4） 丹藤博文 単著『教室の中の読者たち』（学芸図書 1995.4）、単著『他者の言葉』（学芸図書 2001.3） 森川雄介 口頭発表「梶井テキストにおける映画技法」（日本社会文学会東海ブロック例会 2010.1 石川四高記念文化交流館） 五嶋千夏 口頭発表「国粹主義者と宮沢賢治」（東アジア若手研究者交流会 2010.2 韓国東国大学）					
経費支出(各自の教育研究経費の負担を含む)とその内訳	事業費総額				左のうち各自の教育研究経費の負担額 (B)	要求額 (C)=(A)-(B)
	区分	数量	単価	金額 (A)		
	備品費		円	円	円	円
	なし			0	0	0
	消耗品費					
	なし			0	0	0
	旅費					
	なし			0	0	0
	謝金					
	なし			0	0	0
	その他					
	出版費用	500	642.6	321,300	21,300	300,000
	計			321,300	21,300	300,000

※人件費（非常勤職員）の要求はできません。

※備品費は研究遂行のための必要最小限にとどめ、現有設備の活用を極力図ってください。

※公募分野：1.教育改善分野 (1)共通教育 (2)専門教育 a.教員養成4課程 b.現代学芸課程
(3)大学院教育 2.研究発展分野 3.教育研究共通分野